

色麻町バイオマス産業都市構想の概要

宮城県色麻町、人口 約0.7万人、面積 約1.1万ha

構想の概要

鶏糞を主体とする家畜排泄物及びその他バイオマス資源を利用して、バイオガス発電、堆肥・液肥の製造等により地域の再生可能エネルギーを地域に還元して、循環型社会を形成し、災害に強いまちづくりを目指す。

1. 将来像

- ① 鶏糞を主体とする家畜排泄物及びその他有機性廃棄物を利用したメタン発酵によるバイオガス発電の実施
- ② 生成される堆肥・液肥を利用した地産地消型かつ色麻ブランドを生かした農業
- ③ さらに温水及び二酸化炭素を利用した先進的な植物工場の操業
- ④ メタン発酵ガス化発電施設を中心に、イナカの子カラ・シカマの子カラ・ミンナの子カラに基づき、災害に強い循環型社会の形成を目指す

3. 目標(10年後)

バイオマス利用量(トン/日)

種類	直近	10年以内	町利用率%
鶏糞(レイヤー)	50	200	100
牛糞(肉・乳)	5	10	100
食品加工廃棄物	15	20	100
事業系厨芥類	5	20	50
家庭系厨芥類	—	20	30

5. 実施体制

色麻町バイオマス活用推進協議会(仮称)が各プロジェクト実施の検討や進捗を管理、情報共有、連携強化を図る

2. 事業化プロジェクト

- ① 鶏糞主体のバイオガス発電プロジェクト
- ② 地域への電力供給及び災害時用電源としての整備
- ③ 堆肥・液肥を利用した農作プロジェクト
- ④ 温水・二酸化炭素を利用した植物工場プロジェクト
- ⑤ 農業高校と連携した色麻ブランドの農作物開発

4. 地域波及効果

- ① 経済波及効果
 - ・直近プロジェクトによる経済波及効果:33億円
 - ・将来的な経済波及効果:65億円
- ② 温室効果ガス削減効果:5,726t-CO2/年
- ③ その他
 - ・悪臭の低減
 - ・雇用の創出
 - ・化学肥料の使用量低減

6. その他

色麻町まち・ひと・仕事創生総合戦略
色麻町第4次長期総合計画、
色麻町バイオマス活用推進計画(予定)

色麻町のバイオマス産業都市 将来イメージ

「イナカの子カラ・シカマの子カラ・ミンナの子カラ」

